

## 平成 27 年度 佐賀大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

理工・医・農・文化教育学部 平成 27 年 2 月 25 日

- 理工学部は, [1] ~ [4] 数 I・II・III・A・B (120 分)
- 医学部は, [3] ~ [6] 数 I・II・III・A・B (120 分)
- 農学部は, [4], [7] ~ [9] 数 I・II・A・B (120 分)
- 文化教育学部は, [7] ~ [9] 数 I・II・A・B (100 分)

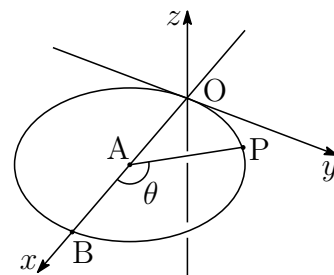
$$\boxed{1} \quad f(x) = \begin{cases} x(5-x) & (x \geq 0) \\ x(x^2-1) & (x < 0) \end{cases}$$

とおき, 関数  $y = f(x)$  のグラフを  $C$  とおく. 直線  $y = ax$  と  $C$  は, 原点  $O$  およびそれ以外の 2 点  $P, Q$  で交わっているものとする. ただし, 点  $P$  の  $x$  座標は正, 点  $Q$  の  $x$  座標は負であるとする. 線分  $OP$  と  $C$  によって囲まれる図形の面積を  $S_1(a)$ , 線分  $OQ$  と  $C$  によって囲まれる図形の面積を  $S_2(a)$  とし,  $S(a) = S_1(a) + S_2(a)$  とおく. このとき, 次の問に答えよ.

- (1)  $a$  の値の範囲を求めよ.
  - (2)  $S_1(a)$  を  $a$  を用いて表せ.
  - (3)  $S_2(a)$  を  $a$  を用いて表せ.
  - (4) (1) で求めた範囲を  $a$  が変化するとき,  $S(a)$  の最小値を求めよ.
- $\boxed{2}$  直線  $\ell: y = ax + b$  と曲線  $C: y = \log x$  ( $x > 0$ ) は接するものとする. ただし,  $a, b$  は定数であり,  $a > 0$  とする. このとき, 次の問に答えよ.
- (1)  $b$  を  $a$  を用いて表せ.
  - (2)  $\ell$  と  $C$  および  $x$  軸で囲まれた図形の面積を  $S$  とする.  $0 < a < 1$  のとき,  $S$  を  $a$  を用いて表せ.

- 3 点  $O$  を原点とし,  $x$  軸,  $y$  軸,  $z$  軸を座標軸とする座標空間において, 3 点  $A(1, 0, 0)$ ,  $B(2, 0, 0)$ ,  $C(1, 0, 1)$  がある. 点  $A$  を中心とする  $xy$  平面上の半径 1 の円周上に点  $P$  をとり, 図のように  $\theta = \angle BAP$  とおく. ただし,  $\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{3}{2}\pi$  とする. また, 直線  $CP$  と  $yz$  平面の交点を  $Q$  とおく. このとき, 次の問に答えよ.

- (1) 点  $P$  の座標を  $\theta$  を用いて表せ.
- (2) 点  $Q$  の座標を  $\theta$  を用いて表せ.
- (3)  $\theta$  の値が  $\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{3}{2}\pi$  の範囲で変化するとき,  $yz$  平面における点  $Q$  の軌跡の方程式を求め, その概形を図示せよ.



- 4 正方形の 4 個の頂点を, 時計回りに順に  $A, B, C, D$  とする. 頂点  $A$  から出発して頂点上を時計回りに点  $P$  を進めるゲームを行う. 硬貨を 1 回投げごとに, 表が出たときには頂点 1 つ分だけ点  $P$  を進め, 裏が出たときには頂点 2 つ分だけ点  $P$  を進めるものとする. ただし, 点  $P$  が頂点  $D$  にとまった時点でゲームは終わるものとする.

硬貨を  $n$  回投げ終えた時点で点  $P$  が頂点  $A$  に到達する確率を  $p_n$  とするとき, 次の問に答えよ.

- (1)  $p_2, p_3$  を求めよ.
- (2)  $p_4, p_5$  を求めよ.
- (3)  $p_{12}$  を求めよ.

- 5  $a, b$  は定数であり,  $0 < a < b$  とする. 定積分

$$I = \int_0^1 a^{1-t} b^t dt$$

について, 次の問に答えよ.

- (1)  $I$  を求めよ.
- (2)  $0 \leq t \leq 1$  のとき,

$$a^{1-t} b^t + a^t b^{1-t} \geq 2\sqrt{ab}$$

であることを示せ. また,  $I > \sqrt{ab}$  を示せ.

- (3)  $0 < t < 1$  とする.  $x > 1$  のとき, 次の不等式が成り立つことを証明せよ.

$$x^t < 1 + t(x - 1)$$

- (4) (3) の不等式を利用して,  $I < \frac{a+b}{2}$  を示せ.

6  $p$  を素数とするとき、次の間に答えよ。

(1) 2つの自然数  $m, n$  の最大公約数は1であるとし、 $x = \frac{n}{m}$  とおく。  $p^x$  が有理数であるならば、 $m = 1$  であることを示せ。

(2) 方程式

$$p^x = -x^2 + 9x - 5$$

が有理数の解  $x$  をもつような組  $(p, x)$  をすべて求めよ。

7 等差数列  $\{a_n\}$  は

$$a_1 = \frac{1}{6}, \quad \sum_{k=11}^{40} a_k = 250$$

を満たすとする。このとき、次の間に答えよ。

(1) 数列  $\{a_n\}$  の一般項を求めよ。

(2)  $a_n \leq 10$  となる  $n$  の最大値  $N$  を求めよ。

(3) (2) で求めた  $N$  に対して、和  $\sum_{k=1}^N a_k$  を求めよ。

8  $a, b, c$  を正の定数とし、3点  $A(a, 0, 0)$ ,  $B(0, b, 0)$ ,  $C(0, 0, c)$  の定める平面を  $\alpha$  とする。また、原点を  $O$  とし、平面  $\alpha$  に垂直な単位ベクトルを  $\vec{n} = (n_1, n_2, n_3)$  とする。ただし、 $n_1 > 0$  とする。このとき、次の間に答えよ。

(1)  $\vec{n}$  を求めよ。

(2) 平面  $\alpha$  上に点  $H$  があり、直線  $OH$  は  $\alpha$  に垂直であるとする。  $\overrightarrow{OH}$  および  $|\overrightarrow{OH}|$  を求めよ。

(3)  $\triangle ABC$  の面積を  $S$ ,  $\triangle OBC$  の面積を  $S_1$  とする。四面体  $OABC$  の体積を考えることにより、 $S_1 = n_1 S$  であることを示せ。

9  $a$  を定数とし、関数

$$f(\theta) = \sin^3 \theta + a \cos 2\theta + \frac{21}{4} \sin \theta$$

は  $f\left(\frac{\pi}{2}\right) = \frac{13}{4}$  を満たすものとする。このとき、次の間に答えよ。

(1)  $a$  の値を求めよ。

(2)  $t = \sin \theta$  とおくとき、 $f(\theta)$  を  $t$  を用いて表せ。

(3)  $-\frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$  における  $f(\theta)$  の最大値、最小値を求めよ。また、そのときの  $\theta$  の値を求めよ。

## 正解

1 (1) 直線  $y = ax$  を  $l$  とする.

$x > 0$  のとき,  $C$  と  $l$  の共有点の  $x$  座標は

$$x(5-x) = ax \quad \text{ゆえに} \quad x(x-5+a) = 0$$

よって, 点 P の  $x$  座標は  $x = 5-a$

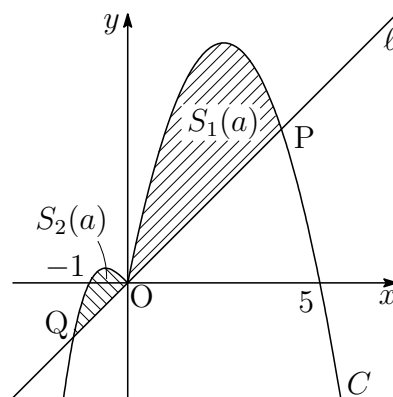
$x < 0$  のとき,  $C$  と  $l$  の共有点の  $x$  座標は

$$x(x^2-1) = ax \quad \text{ゆえに} \quad x(x^2-a-1) = 0$$

よって, 点 Q の  $x$  座標は  $x = -\sqrt{a+1}$

P, Q それぞれの  $x$  座標の符号から  $5-a > 0, -\sqrt{a+1} < 0$

これを解いて  $-1 < a < 5$



$$(2) S_1(a) = \int_0^{5-a} \{x(5-x) - ax\} dx$$

$$= - \int_0^{5-a} x(x-5+a) dx = \frac{1}{6}(5-a)^3$$

$$(3) S_2(a) = \int_{-\sqrt{a+1}}^0 \{(x^3-x) - ax\} dx = \int_{-\sqrt{a+1}}^0 \{x^3 - (a+1)x\} dx$$

$$= \left[ \frac{1}{4}x^4 - \frac{1}{2}(a+1)x^2 \right]_{-\sqrt{a+1}}^0 = \frac{1}{4}(a+1)^2$$

(4)  $S(a) = S_1(a) + S_2(a)$  より, (2), (3) の結果から

$$S(a) = \frac{1}{6}(5-a)^3 + \frac{1}{4}(a+1)^2$$

$$S'(a) = -\frac{1}{2}(5-a)^2 + \frac{1}{2}(a+1) = -\frac{1}{2}(a-3)(a-8)$$

$-1 < a < 5$  における  $S(a)$  の増減表は次のようになる.

$a$	$(-1)$	$\cdots$	$3$	$\cdots$	$(5)$
$S'(a)$		$-$	$0$	$+$	
$S(a)$		$\searrow$	$\frac{16}{3}$	$\nearrow$	

よって,  $S(a)$  の最小値は  $S(3) = \frac{16}{3}$

2 (1)  $f(x) = ax + b$ ,  $g(x) = \log x$  とおくと

$$f'(x) = a, \quad g'(x) = \frac{1}{x}$$

$\ell$  と  $C$  の接点の  $x$  座標を  $t$  とすると,  $f(t) = g(t)$ ,  $f'(t) = g'(t)$  であるから

$$at + b = \log t, \quad a = \frac{1}{t}$$

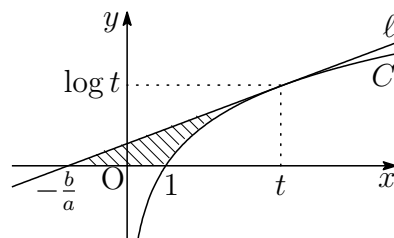
上の第2式より,  $t = \frac{1}{a}$  であるから, これを第1式に代入すると

$$a \cdot \frac{1}{a} + b = \log \frac{1}{a} \quad \text{ゆえに} \quad b = -\log a - 1$$

(2)  $0 < a < 1$  より  $t = \frac{1}{a} > 1$

$\ell$  と  $x$  軸との交点の  $x$  座標は

$$ax + b = 0 \quad \text{ゆえに} \quad x = -\frac{b}{a}$$



求める面積は, 右の図の斜線部分であるから, (1) の結果により

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \left\{ t - \left( -\frac{b}{a} \right) \right\} \log t - \int_1^t \log x \, dx \\ &= \frac{1}{2} \left( \frac{1}{a} + \frac{b}{a} \right) \log t - \left[ x(\log x - 1) \right]_1^t \\ &= \frac{1}{2} \left( \frac{1}{a} - \frac{\log a + 1}{a} \right) \log t - t(\log t - 1) - 1 \\ &= \frac{1}{2} \left( -\frac{\log a}{a} \right) (-\log a) - \frac{1}{a}(-\log a - 1) - 1 \\ &= \frac{(\log a)^2}{2a} + \frac{\log a + 1}{a} - 1 \\ &= \frac{(\log a)^2 + 2 \log a - 2a + 2}{2a} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 \boxed{3} \quad (1) \quad \vec{OP} &= \vec{OA} + \vec{AP} \\
 &= (1, 0, 0) + (\cos \theta, \sin \theta, 0) \\
 &= (1 + \cos \theta, \sin \theta, 0)
 \end{aligned}$$

よって、点Pの座標は  $(1 + \cos \theta, \sin \theta, 0)$

(2) 直線CPを媒介変数  $t$  を用いて表すと

$$\begin{aligned}
 (x, y, z) &= (1-t)\vec{OC} + t\vec{OP} \\
 &= (1-t)(1, 0, 1) + t(1 + \cos \theta, \sin \theta, 0) \\
 &= (1 + t \cos \theta, t \sin \theta, 1-t) \quad \dots (*)
 \end{aligned}$$

直線CPと  $yz$  平面との交点Qの  $x$  座標は0であるから

$$1 + t \cos \theta = 0 \quad \text{ゆえに} \quad t = -\frac{1}{\cos \theta}$$

これを(\*)に代入すると  $Q\left(0, -\tan \theta, 1 + \frac{1}{\cos \theta}\right)$

(3) (2)の結果から、点Q(0,  $y$ ,  $z$ )は

$$y = -\tan \theta, \quad z = 1 + \frac{1}{\cos \theta} \quad \dots (**)$$

このとき、 $\frac{\pi}{2} < \theta < \frac{3}{2}\pi$  より  $z \leq 0$   $\dots$  ①

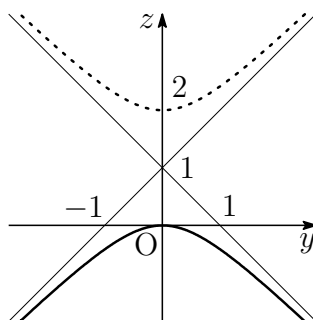
(\*\*)から  $\tan \theta = -y, \quad \frac{1}{\cos \theta} = z - 1$

これらを  $1 + \tan^2 \theta = \left(\frac{1}{\cos \theta}\right)^2$  に代入すると  $1 + (-y)^2 = (z - 1)^2$

点Qの軌跡の方程式は、上式および①から

$$x = 0, \quad y^2 - (z - 1)^2 = -1, \quad z \leq 0$$

$yz$  平面における点Qが描く軌跡は、双曲線  $y^2 - z^2 = -1$  を  $z$  軸方向に1だけ平行移動したもので、下の図の実線部分である。



4 (1)  $p_2$  は、2回連続して裏が出る確率であるから

$$p_2 = \left(\frac{1}{2}\right)^2 = \frac{1}{4}$$

$p_3$  は、「表表裏」の順に出る確率であるから

$$p_3 = \left(\frac{1}{2}\right)^2 \times \frac{1}{2} = \frac{1}{8}$$

(2) (1)の結果から

$$p_4 = p_2 \times p_2 = \frac{1}{4} \times \frac{1}{4} = \frac{1}{16}$$

$$p_5 = p_3 \times p_2 + p_2 \times p_3 = \frac{1}{8} \times \frac{1}{4} + \frac{1}{4} \times \frac{1}{8} = \frac{1}{16}$$

(3) (2)の結果から

$$p_6 = p_4 \times p_2 + p_3 \times p_3 = \frac{1}{16} \times \frac{1}{4} + \frac{1}{8} \times \frac{1}{8} = \frac{1}{32}$$

$$p_7 = p_5 \times p_2 + p_4 \times p_3 = \frac{1}{16} \times \frac{1}{4} + \frac{1}{16} \times \frac{1}{8} = \frac{3}{128}$$

$$p_8 = p_6 \times p_2 + p_5 \times p_3 = \frac{1}{32} \times \frac{1}{4} + \frac{1}{16} \times \frac{1}{8} = \frac{1}{64}$$

$$p_9 = p_7 \times p_2 + p_6 \times p_3 = \frac{3}{128} \times \frac{1}{4} + \frac{1}{32} \times \frac{1}{8} = \frac{5}{512}$$

$$p_{10} = p_8 \times p_2 + p_7 \times p_3 = \frac{1}{64} \times \frac{1}{4} + \frac{3}{128} \times \frac{1}{8} = \frac{7}{1024}$$

よって

$$p_{12} = p_{10} \times p_2 + p_9 \times p_3 = \frac{7}{1024} \times \frac{1}{4} + \frac{5}{512} \times \frac{1}{8} = \frac{3}{1024}$$

別解  $p_2, p_3$  に対する事象をそれぞれ  $X, Y$  とする。硬貨を12回投げ終えてPがAに到達するまでに  $X, Y$  が起きた回数をそれぞれ  $x, y$  とすると

$$2x + 3y = 12 \quad \text{これを解いて} \quad (x, y) = (6, 0), (3, 2), (0, 4)$$

よって、求める確率は

$$\begin{aligned} p_{12} &= (p_2)^6 + {}_5C_2(p_2)^3(p_3)^2 + (p_3)^4 \\ &= \left(\frac{1}{4}\right)^6 + 10 \left(\frac{1}{4}\right)^3 \left(\frac{1}{8}\right)^2 + \left(\frac{1}{8}\right)^4 = \frac{3}{1024} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \boxed{5} \quad (1) \quad I &= \int_0^1 a^{1-t} b^t dt = a \int_0^1 \left(\frac{b}{a}\right)^t dt \\ &= \frac{a}{\log \frac{b}{a}} \left[ \left(\frac{b}{a}\right)^t \right]_0^1 = \frac{a}{\log \frac{b}{a}} \left(\frac{b}{a} - 1\right) = \frac{b - a}{\log b - \log a} \end{aligned}$$

$$(2) \quad \left(a^{\frac{1-t}{2}} b^{\frac{t}{2}} - a^{\frac{t}{2}} b^{\frac{1-t}{2}}\right)^2 \geq 0 \cdots (*) \text{ であるから}$$

$$a^{1-t} b^t - 2a^{\frac{1}{2}} b^{\frac{1}{2}} + a^t b^{1-t} \geq 0$$

$$\text{すなわち} \quad a^{1-t} b^t + a^t b^{1-t} \geq 2\sqrt{ab} \quad \cdots (**)$$

$0 < a < b$  より, (\*) において, 等号が成立するとき

$$a^{\frac{1-t}{2}} b^{\frac{t}{2}} = a^{\frac{t}{2}} b^{\frac{1-t}{2}}$$

$$\text{したがって} \quad \left(\frac{b}{a}\right)^{\frac{1}{2}-t} = 1 \quad \text{すなわち} \quad t = \frac{1}{2}$$

$$I = \int_0^1 a^{1-t} b^t dt \text{ で } u = 1 - t \text{ とおくと } \frac{dt}{du} = -1, \quad \begin{array}{c|c} t & 0 \longrightarrow 1 \\ \hline u & 1 \longrightarrow 0 \end{array}$$

$$\text{したがって} \quad I = \int_1^0 a^u b^{1-u} (-du) = \int_0^1 a^u b^{1-u} du = \int_0^1 a^t b^{1-t} dt$$

(\*\*) において, 等号が成立するのは,  $t = \frac{1}{2}$  のときに限るので

$$\int_0^1 (a^{1-t} b^t + a^t b^{1-t}) dt > \int_0^1 2\sqrt{ab} dt$$

$$\text{したがって} \quad I + I > 2\sqrt{ab} \left[ t \right]_0^1 \quad \text{よって} \quad I > \sqrt{ab}$$

$$(3) \quad f(u) = u^t \text{ とおくと, } f'(u) = tu^{t-1}. \text{ 平均値の定理により}$$

$$\frac{f(x) - f(1)}{x - 1} = f'(c) \quad (1 < c < x)$$

を満たす  $c$  が存在する.  $0 < t < 1$  より  $f'(c) = tc^{t-1} < t \cdot 1^{t-1} = t$

$$\text{したがって} \quad \frac{x^t - 1}{x - 1} < t \quad \text{よって} \quad x^t < 1 + t(x - 1)$$

$$(4) \quad 0 < a < b \text{ より, } x = \frac{b}{a} > 1 \text{ とおくと, } \left(\frac{b}{a}\right)^t < 1 + t\left(\frac{b}{a} - 1\right) \text{ であるから}$$

$$I = a \int_0^1 \left(\frac{b}{a}\right)^t dt < a \int_0^1 \left\{ 1 + t\left(\frac{b}{a} - 1\right) \right\} dt = \frac{a+b}{2}$$



- 6 (1)  $p^x$  が有理数  $\frac{a}{b}$  に等しいとき ( $a, b$  は互いに素とする)

$$p^{\frac{n}{m}} = \frac{a}{b} \quad \text{ゆえに} \quad p^n = \frac{a^m}{b^m} \quad \dots \textcircled{1}$$

① は整数であるから  $b^m = 1$  ゆえに  $b = 1$

これを ① に代入すると  $p^n = a^m \quad \dots \textcircled{2}$

② より,  $a$  は  $p$  を因数にもつから,  $a = p^k$  とおく ( $k$  は整数).

これを ② に代入すると

$$p^n = (p^k)^m \quad \text{ゆえに} \quad p^n = p^{km}$$

上の第 2 式から  $n = km$  ゆえに  $k = \frac{n}{m}$

$m, n$  の最大公約数は 1 であるから  $m = 1$

- (2) (1) の結果から,  $x$  は整数であるから

$$p^x = -x^2 + 9x - 5 \quad \dots (*)$$

は正の整数である.  $f(x) = -x^2 + 9x - 5$  とおくと,  $f(x) > 0$  となる  $x$  は

$x$	1	2	3	4	5	6	7	8
$f(x)$	3	9	13	15	15	13	9	3

上の表から, (\*) を満たすのは, 次の 2 つである.

$$3^1 = f(1), \quad 3^2 = f(2)$$

よって  $(p, x) = (3, 1), (3, 2)$

7 (1)  $\{a_n\}$  の公差を  $d$  とすると

$$a_{11} = \frac{1}{6} + 10d, \quad a_{40} = \frac{1}{6} + 39d$$

$$\sum_{k=11}^{40} a_k = 250 \text{ より}$$

$$\frac{1}{2} \cdot 30 \left\{ \left( \frac{1}{6} + 10d \right) + \left( \frac{1}{6} + 39d \right) \right\} = 250 \quad \text{これを解いて} \quad d = \frac{1}{3}$$

$$\text{よって, } \{a_n\} \text{ の一般項は} \quad a_n = \frac{1}{6} + (n-1) \cdot \frac{1}{3} = \frac{1}{3}n - \frac{1}{6}$$

(2) (1) の結果から,  $a_n \leq 10$  のとき

$$\frac{1}{3}n - \frac{1}{6} \leq 10 \quad \text{ゆえに} \quad n \leq 30 + \frac{1}{2}$$

これを満たす  $n$  の最大値  $N$  は **30**

(3) (1), (2) の結果から

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^N a_k &= \sum_{k=1}^{30} \left( \frac{1}{3}k - \frac{1}{6} \right) \\ &= \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2} \cdot 30(30+1) - \frac{1}{6} \cdot 30 = \mathbf{150} \end{aligned}$$

- 8 (1)  $A(a, 0, 0)$ ,  $B(0, b, 0)$ ,  $C(0, 0, c)$  より

$$\vec{AB} = (-a, b, 0),$$

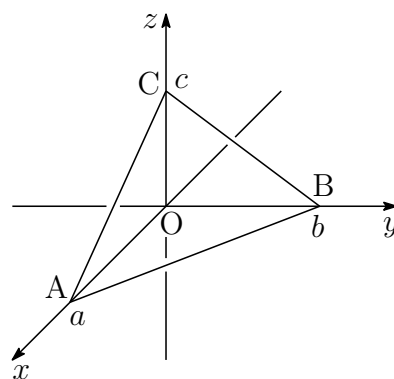
$$\vec{AC} = (-a, 0, c)$$

$\vec{AB}$ ,  $\vec{AC}$  に垂直なベクトルの 1 つを

$$\vec{r} = (bc, ca, ab)$$

とおくと,  $\vec{n}$  の  $x$  成分の符号に注意して

$$\vec{n} = \frac{1}{|\vec{r}|} \vec{r} = \frac{1}{\sqrt{(bc)^2 + (ca)^2 + (ab)^2}} (bc, ca, ab)$$



$$(2) \quad \vec{r} = (bc, ca, ab) = \frac{bc}{a} \vec{OA} + \frac{ca}{b} \vec{OB} + \frac{ab}{c} \vec{OC} \quad \dots \textcircled{1}$$

$$\vec{OH} \text{ は } \vec{r} \text{ に平行であるから } (k \text{ は定数}) \quad \vec{OH} = k\vec{r} \quad \dots \textcircled{2}$$

① を ② に代入すると

$$\begin{aligned} \vec{OH} &= k \left( \frac{bc}{a} \vec{OA} + \frac{ca}{b} \vec{OB} + \frac{ab}{c} \vec{OC} \right) \\ &= \frac{bc}{a} k \vec{OA} + \frac{ca}{b} k \vec{OB} + \frac{ab}{c} k \vec{OC} \end{aligned}$$

$$\text{H は平面 } \alpha \text{ 上の点であるから} \quad \frac{bc}{a} k + \frac{ca}{b} k + \frac{ab}{c} k = 1$$

$$\text{したがって} \quad k = \frac{abc}{(bc)^2 + (ca)^2 + (ab)^2} = \frac{abc}{|\vec{r}|^2} \quad \dots \textcircled{3}$$

②, ③ および  $k > 0$  に注意して

$$\begin{aligned} \vec{OH} &= \frac{abc}{(bc)^2 + (ca)^2 + (ab)^2} \vec{r} \\ &= \frac{abc}{(bc)^2 + (ca)^2 + (ab)^2} (bc, ca, ab) \\ |\vec{OH}| &= k |\vec{r}| = \frac{abc}{|\vec{r}|^2} |\vec{r}| = \frac{abc}{|\vec{r}|} = \frac{abc}{\sqrt{(bc)^2 + (ca)^2 + (ab)^2}} \end{aligned}$$

$$(3) \text{ (1) の結果から} \quad n_1 = \frac{bc}{|\vec{r}|}$$

四面体 OABC の体積により,  $\frac{1}{3} S_1 a = \frac{1}{3} S |\vec{OH}|$  であるから

$$S_1 a = S \times \frac{abc}{|\vec{r}|} \quad \text{ゆえに} \quad S_1 = \frac{bc}{|\vec{r}|} S = n_1 S$$

- 9 (1)  $f(\theta) = \sin^3 \theta + a \cos 2\theta + \frac{21}{4} \sin \theta$  に  $\theta = \frac{\pi}{2}$  を代入すると

$$f\left(\frac{\pi}{2}\right) = 1 - a + \frac{21}{4} = \frac{25}{4} - a$$

$$f\left(\frac{\pi}{2}\right) = \frac{13}{4} \text{ であるから}$$

$$\frac{25}{4} - a = \frac{13}{4} \quad \text{これを解いて} \quad a = 3$$

- (2)  $a = 3$ ,  $\cos 2\theta = 1 - 2\sin^2 \theta$  より

$$\begin{aligned} f(\theta) &= t^3 + 3(1 - 2t^2) + \frac{21}{4}t \\ &= t^3 - 6t^2 + \frac{21}{4}t + 3 \end{aligned}$$

- (3)  $-\frac{\pi}{2} \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}$  より  $-1 \leq t \leq 1$

$$g(t) = t^3 - 6t^2 + \frac{21}{4}t + 3 \quad (-1 \leq t \leq 1)$$

とおくと

$$\begin{aligned} g'(t) &= 3t^2 - 12t + \frac{21}{4} \\ &= \frac{3}{4}(4t^2 - 16t + 7) = \frac{3}{4}(2t - 1)(2t - 7) \end{aligned}$$

したがって、 $g(t)$  の増減表は、次のようになる。

$t$	-1	...	$\frac{1}{2}$	...	1
$g'(t)$		+	0	-	
$g(t)$	$-\frac{37}{4}$	↗	$\frac{17}{4}$	↘	$\frac{13}{4}$

よって  $t = \frac{1}{2}$  すなわち  $\theta = \frac{\pi}{6}$  のとき 最大値  $\frac{17}{4}$   
 $t = -1$  すなわち  $\theta = -\frac{\pi}{2}$  のとき 最小値  $-\frac{37}{4}$